

令和元年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていると思いますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】 ○一人一人を大切にされた指導については、きずなアンケートや定期的な教育相談に加え、生活ノートや生徒との会話、家庭との連絡を密に行い、生徒の心の状態を常に把握しようとしているため、「4」「3」の割合が高いと考えられる。また、保護者の割合が若干低くなっているため、より丁寧な対応が必要である。 ○友達への思いやりについて「4」「3」の割合が高く、良好な状態である。しかし、「4」と答えた生徒と教師の割合に差があり、「思いやり」ある行動に対する生徒と教職員の認識の違いが大きいと判断される。教職員は、緊張感を絶やさずに、アンテナを高くして、生徒の人間関係把握に努める必要がある。 ○道徳・心の教育の充実について、保護者、教職員の評価ともに「4」「3」の割合が高い。教職員が、道徳・心の教育の充実の重要性を共通理解し、実践している成果であると考えられる。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】 ○意欲的な授業の取り組みについて「4」「3」は、昨年度と同様に高く、落ち着いた授業風景が想像できる。ただ、「4」と答えた生徒と教職員の割合が生徒60%に対して、教職員が17%であった。子どもの意欲をどうとらえ、どう評価するかについての研修・研究が必要である。 ○授業力向上について、教職員は教材研究を十分行い、わかる授業、楽しい授業づくりに努めているという認識であるが、子どもにうまく伝わっていないと考えられる。「2」「1」と答えた生徒が昨年度の14%から11%に減少しているものの、約1割の生徒がいるということを生徒からのメッセージとして受け取り、今後とも教材研究や「わかる」授業、「楽しい」授業づくりに邁進しなければならない。 ○ICT活用について、「4」「3」と答えた生徒、教職員は昨年度より若干増加し、教師は97%、生徒は93%となった。全クラスに電子黒板が設置され、全教師にタブレットが這う付され、授業で盛んに利用されるようになってきたことによるものである。今後は、来年度から活用する生徒用タブレットを始め、ICT機器の有効活用を全職員、全教科で行うために、定期的に研修を繰り返していく必要がある。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>【学校から】 ○健康づくりに関しては概ね良好といえるが、教職員の「4」「3」が昨年度の81%から70%に大幅に減少している。学校では、学校保健委員会による啓発活動や各種の通信によって、健康づくりへの意識を絶やさないようにしているが、その取り組みを更に充実させていく必要がある。</p>

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

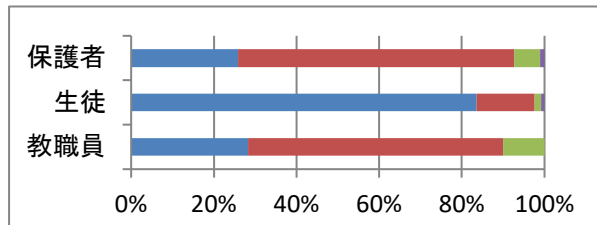
8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応	②特別支援教育の推進
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>10 学校の支援体制 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】 ○教職員が日頃から生徒理解に努めていることがよく分かる。ただ、「1」と答えた生徒が実数で13名おり、今後も担任を中心とした組織的取り組みによって生徒理解を推進することが重要であり、これが「いじめや問題への対応」で「1」と答えた9名の生徒への支援にもつながると考えられる。また、学校の支援体制において、保護者はおおむね良好ととらえているが、児童生徒理解で、「1」と答えた保護者が5名いらっしゃることを重く受け止め、更に保護者との信頼関係の構築、強化に努めなくてはならない。今後、ますます保護者との情報共有を意図的に行う必要がある。</p>		

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

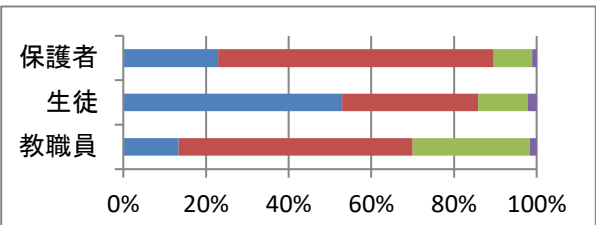
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



【学校から】
 ○保護者も教職員も、安心・安全な環境について同じような見方をしていると考えられる。想定外を想定した安全教育、避難訓練を計画しなければならない。熊本地震の体験が風化しないよう、同規模の地震が発生しても被害を最小限に食い止めることができるよう、より現実味のある避難訓練を工夫していく必要がある。また、事故やトラブルがある度に危機管理マニュアルも更新していく必要がある。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

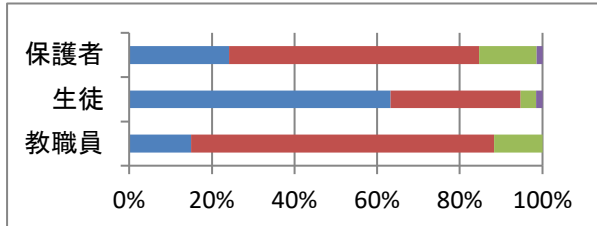


【学校から】
 ○「2」「1」と答えた教職員が昨年度の21%から30%に増加している。本校の校舎、設備は全般的に老朽化が進んでいる。校舎、設備の修繕作業を徹底しながら、「学校を大切に」心の育成を行っていかなければならない。今後、更に生徒数が増加することが予想されているので、トイレ、水道を含めた大規模改修も視野にいれる必要がある。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

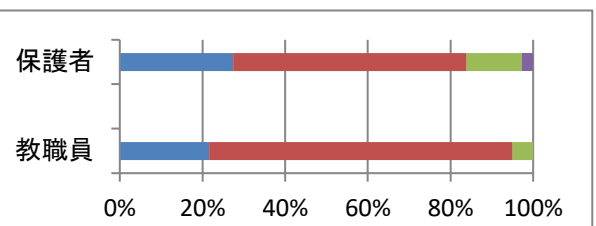
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



【学校から】
 ○教職員と保護者が一つのチームとして生徒を指導・支援していくためには、教育方針・目標の共通理解をさらに徹底する必要がある。年度当初のPTA総会や家庭訪問、学校・学級通信、あるいはHPや安心メール等、様々な手段によって保護者や地域に発信していく必要がある。今後ますます進行していく「開かれた学校づくり」のために、学校と地域の交流をさらに促進する必要がある。

14 家庭や地域との連携協力

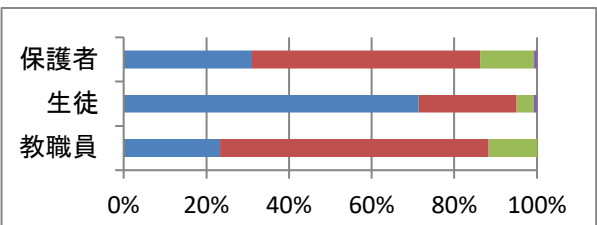
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



④本校の教育

15 あいさつ

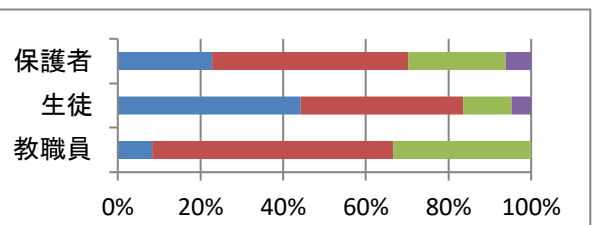
生徒は、家庭や地域、学校でよく挨拶をしていると思いますか。



【学校から】
 ○あいさつ、特にきまりを守るに関して、保護者、生徒、教職員ともに97%程度が「4」「3」と答えている。この数値からも、生徒が落ち着いた学校生活を送っていることがわかる。このことが、生徒の自己肯定感を高め、学校生活を充実させる意欲につながると考える。しかし、「4」と「3」の割合を見てみると、あいさつ、学習、きまり、どの項目に関して、教師の求める水準と生徒がよいと考える水準に格差がある。挨拶の意味、家庭学習の目的、きまりを守ることの意義を、一人一人の生徒が理解できるように、担任を中心に生徒指導部、特活部、研究部等が連携して指導・支援していく必要がある。「あ・そ・ふ・じ」や「無言掃除」、校訓「自主・勤勉・協調」が単にスローガンにならないよう、しっかりした手立てを講じていかなければならない。

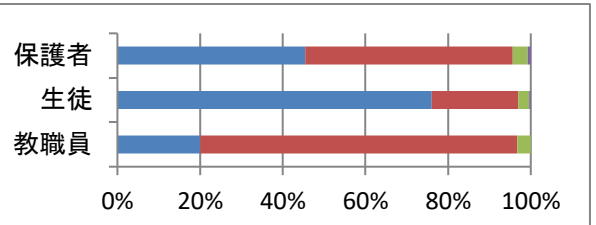
16 家庭学習

生徒は、家庭学習に取り組んでいると思いますか。



17 きまりを守る

生徒は、学校や社会生活のきまりを守っていると思いますか。



来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、PTA総会、家庭訪問等、あらゆる機会を通して情報発信を行う。
 ○毎時間の授業の充実のための教材開発を続けていくとともに、電子黒板やタブレット等のICT機器の有効的な活用を中心とした授業改善を行い、学力充実を図る。また、基本的な生活習慣の確立を中心にして、個に応じた学習のさらなる徹底を図っていく。
 ○一人一人の生徒を大切にしたい教育を推進するために、生徒や保護者、地域のニーズに応じていく必要がある。そのために、情報の発信、伝達、共有、実践を的確に行う体制を確立する。また、生活ノートや日頃の関わりを通して、生徒や保護者の「思い」を大切に、常に把握するよう心掛ける。さらに、生徒指導主事や特別支援コーディネーターを窓口、児童相談所等の外部機関や専門機関との連絡相談を絶やせず、的確な指導・支援が随時行えるようにする。
 ○学校の職員や生徒会だけでなく、PTAや地域の諸団体と連携しながら、挨拶、マナーなどの規範意識を育てる指導の充実を図る。
 ○安全、食育、道徳・総合・教科学習の面から、保護者・地域との人材交流、情報の共有をさらに進め、地域に根ざした教育を充実させる。
 ○エアコンの導入により快適な学習環境が整備された。エアコンのメンテナンス（フィルター清掃等）を定期的に行うとともに、授業後の空気の入れ替え、給食前の手洗い、風邪等罹患者のマスク着用等、衛生管理にはエアコン設置以前よりも徹底して行う必要がある。同時に、基本的な生活習慣・マナーの確立を図る。
 ○熊本市学力テストのSYENシステムや全国学力学習状況テストを受けて、より生徒の学力を分析し、きめ細かな指導の工夫改善に努める。
 ○校舎の老朽化によって破損箇所が生じたら、すぐに教育委員会へ連絡して必要な措置を講じる。今後、ますます生徒数が増えることが予想されるので、安心・安全な環境が提供できるよう、保護者、地域の方々や教育委員会と連携・協力を進めていく。

学校関係者評価

○全クラスへのアンケートより、「自分自身が好きなおところがある」と答えた生徒は91%であり、「仲間(友達)のことを大切にできた」と答えた生徒が99%であった。仲間を大切にしていると生徒自身が自覚していることはすばらしいことであり、自分を大切にできる生徒は仲間も大事にできる。今後も、生徒の自己肯定感を高める手立てを続けてほしい。
 ○実際に授業風景を見たり、保護者からの話を聞いたり、アンケート結果を見たりして、子どもたちが落ち着いた学校生活を送っていることがよく伝わってくる。また、子どもたちが集中して授業に参加しており、感心させられた。また、先生方もICTの活用や様々な工夫を取り入れて授業を行っていた。
 ○授業において、タブレット等を有効活用しながら、子どもたちの対話を生み出す取組に期待している。
 ○学校内で、生徒が明るくあいさつしてくれる。また、地域の挨拶運動でも、託麻中学校の生徒は大きな声で挨拶を返してくれる。挨拶を返さない生徒に関しては、こちらから声をかけるようにしている。
 ○生徒指導・教育相談では、あいさつの励行や規範意識の醸成を図っており、それが生徒の落ち着いた生活態度に結びついているが、さまざまな事情を抱えている子どもがいるので、細やかな配慮をしながら、すべての生徒が心豊かに育ててほしい。
 ○重大事態となるいじめはないが、不登校生徒が増えつつあるようだ。今後は、学校の課題をオープンにして、地域ぐるみで組織的に対応していくことが大事だと考える。○託麻中校区では地域の支えがしっかりしているので、教職員と保護者の連携・協力をさらに積極的に深めていきたい。
 ○毎年生徒数が増加していく中で、老朽化した校舎の安全管理とともに、新しく建つプレハブ校舎の管理についても考えていく必要がある。
 ○PTA会費で、託麻中学校の4つの門に監視カメラを設置した。おかげで、防犯にとっても役立っている。今後は、自転車小屋の照明についても考えてほしい。